

# これからの小・中学校施設

小学校及び中学校施設整備指針の改訂を踏まえて

## index

小学校及び中学校施設整備指針の改訂について ————— 1

この事例集で紹介する小・中学校施設の計画に見られる  
今回の施設整備指針改訂のポイント ————— 2

### 【小学校】



1 千葉県流山市  
流山市立小山小学校 ————— 5



2 東京都多摩市  
多摩市立多摩第一小学校 ————— 9



3 兵庫県神戸市  
神戸市立玉津第一小学校 ————— 13



4 富山県滑川市  
滑川市立西部小学校 ————— 17



5 東京都武蔵野市  
武蔵野市立大野田小学校 ————— 21

外国語活動のための充実した空間 ————— 25

### 【中学校】



1 新潟県長岡市  
長岡市立東中学校 ————— 27



2 三重県熊野市  
熊野市立有馬中学校 ————— 31



3 山口県下関市  
下関市立豊北中学校 ————— 35



4 福井県福井市  
福井市立至民中学校 ————— 39



5 千葉県山武郡横芝光町  
横芝光町立横芝中学校 ————— 43

幼稚園、小学校及び中学校施設整備指針  
改訂に係る事例集検討委員会委員名簿 ————— 47

# 1

千葉県流山市

## 流山市立小山小学校

- クラス数 / 14 クラス
  - 児童数 / 387 名
  - 建築主 / 流山市
  - 所在地 / 流山市十太夫 97-1
  - 敷地面積 / 21,139.19㎡
  - 建築面積 / 6,282.36㎡
  - 延床面積 / 9,042.68㎡ (体育館 1,263.28㎡)
  - 構造・規模 / 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造  
地上 2 階地下 1 階建
  - 施工期間 / 2008 年 2 月～2009 年 3 月
- ※クラス・児童の数値は平成 22 年 3 月末現在

### 個別・集団、学年で変わる 学習形態と学習環境。

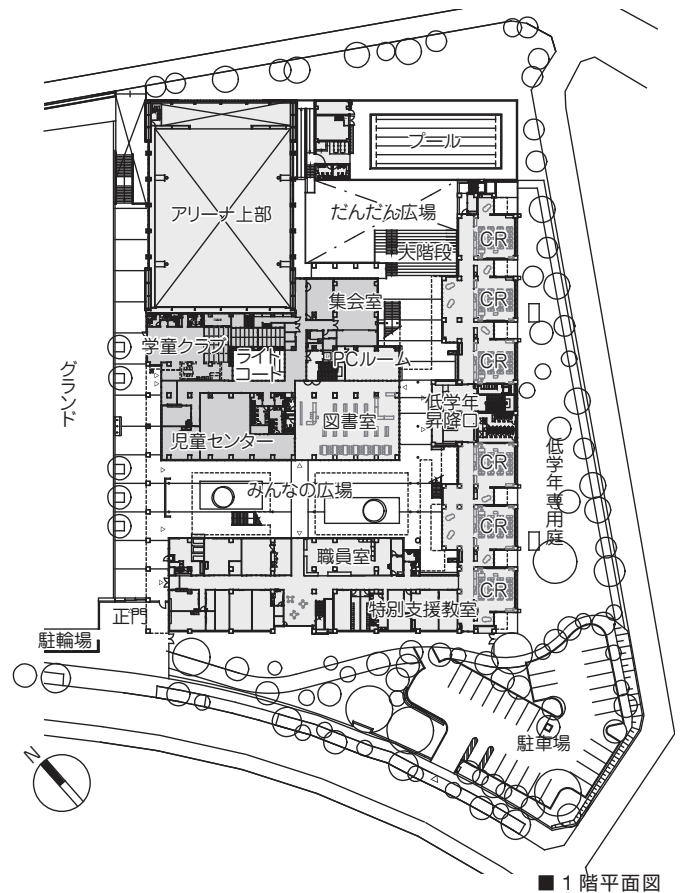
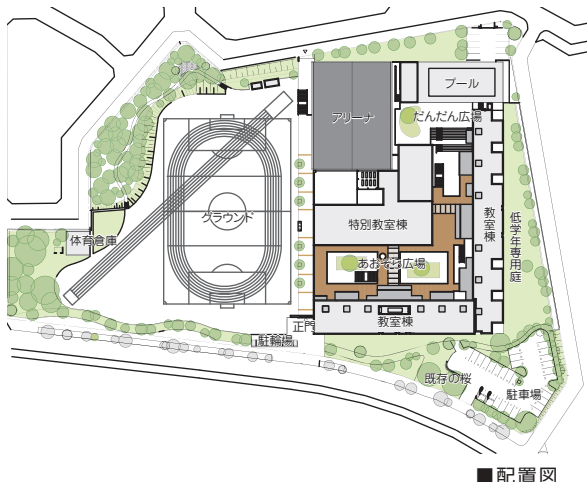
普通教室とつながる多目的スペース。6 年間の心身の大きな成長や、学習や生活の変化に対応できるよう、学年ごとに特色ある教室まわりの空間構成。IT 環境の充実と共に子どもたちに「学び合い」の場を提供。



だんだん広場を中心に配置された学習ゾーンと地域開放ゾーン

### 計画に見られる 指針改訂のポイント

1. 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
2. 情報環境の充実

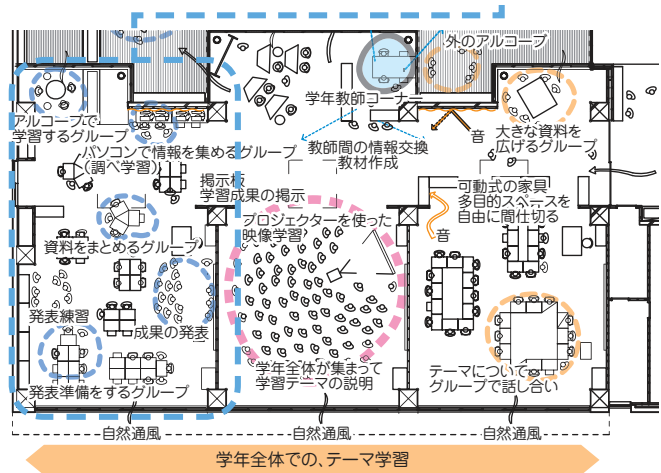




多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供  
 普通教室と一体的に多目的スペースを整備



1 多目的スペースと教室が一体化した学習空間イメージ



2 多目的スペースと教室が一体化した学習空間構成(中学年ユニット例)



3 多目的スペースから見たオープンな教室

校長の視点から

多様な学習が可能な多目的スペース

豊かな心と学力をはぐむため、児童同士の「学び合い」などの多様な学習を展開しています。多様な学習を、普通教室に連続して一体的に利用できる多目的スペース（オープンスペース）で実施しています。このオープンスペースは、個別学習の場、チームティーチング、作品や教材の掲示・展示の場として利用でき、その中で児童同士の交流や関わり合いが生ま

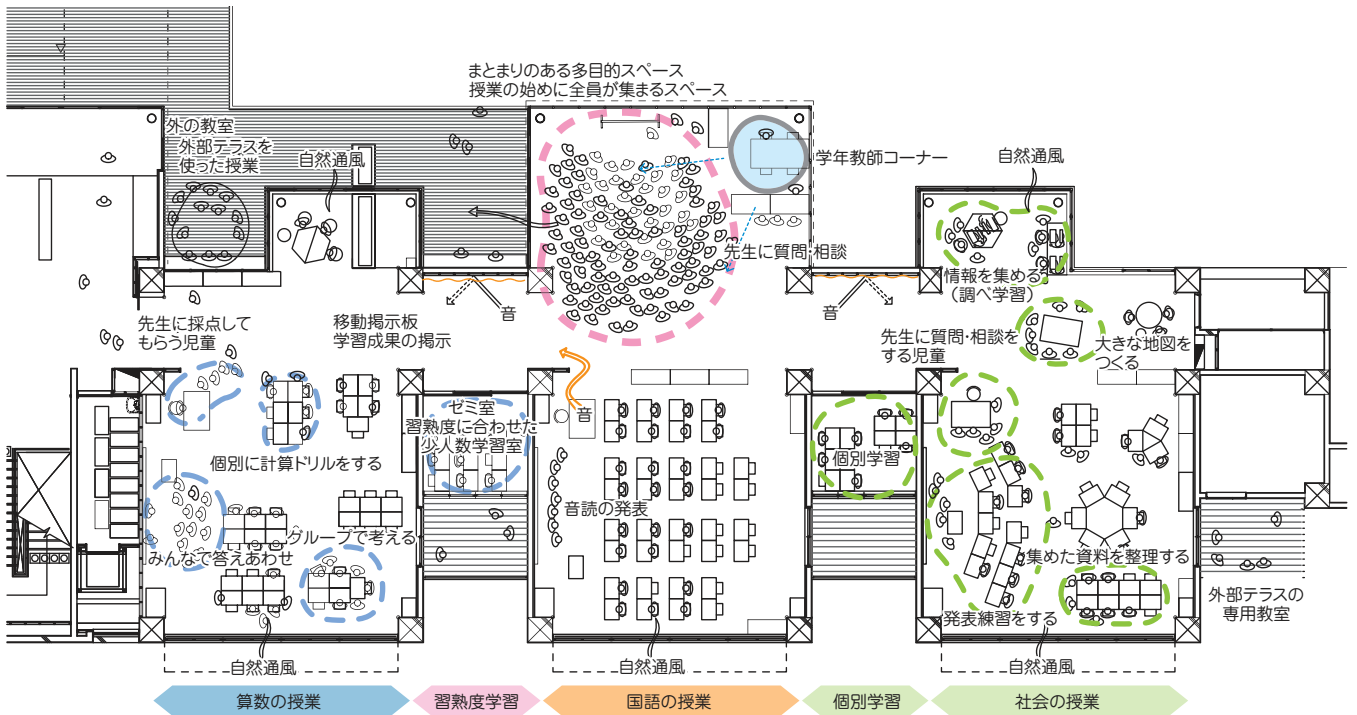
れ、コミュニケーション能力が育成されるなど、学校生活を豊かにするスペースとなっています。また、多様な集団の大きさに対応できる集会の場としても活用でき、非常に有用です。  
 (図1、2)

教職員の視点から

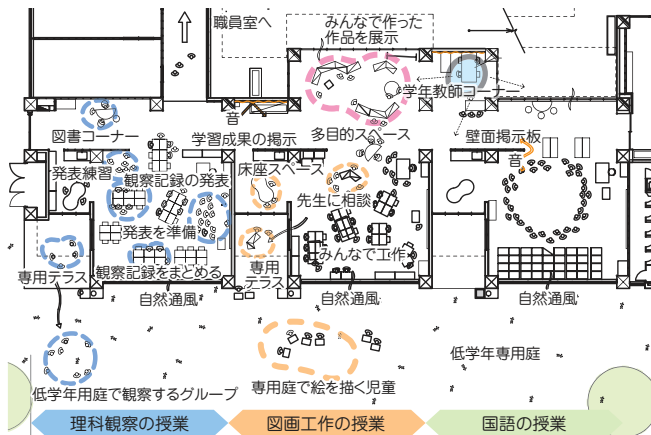
グループ学習に適した多目的スペース

多目的スペースを使えば、2、3学級が集まれる空間が得られるため、学年単位でのグループ学習が可能です。また、学級間の交流の場としても機能しています。本校では地域の学習を取り入れており、地域の方々に、地域の特色や昔から伝わる民話を話して頂いたこともあります。  
 (図1、2、写真3)

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供  
 多目的教室における発達段階に応じたしつらえの工夫



4 子どもたちの活動や学習形態に合わせた教室ユニット(高学年ユニット例) / 低中高学年ごとに空間構成を変えている



5 専用のワークスペースとテラスを取り入れた低学年ユニット例



6 教室と連続した多目的スペース(高学年用)



7 ゼミ室は、閉じることができ、落ち着いて集中できる空間

低学年教室にはテラスと手洗い場を付属

教室には発達段階に応じて異なる工夫がされています。例えば低学年の教室には各クラス専用のテラスと手洗い場が設けられています。教室から直接テラス(屋外)へ出入りできるようになっているため、児童たちは屋外で活発に活動する時間が多くなりました。また教室に戻ったら手洗いとうがいをする習慣が自然と養われています。(図4、5、写真6、7)

無線LANによりどこでも調べ学習が可能に

校内無線LANにより、個人あるいはグループ学習の際にさまざまな場所でパソコンを使用した調べ学習ができます。身近な空間でパソコンに接することできるので、児童たちの興味に応じ、学習の幅も増えます。また、教室に設置した大型画面テレビをパソコンモニターとして利用し、授業に活用できるので大変有効です。さらにパソコンの基本操作や学習発表のためのプレゼンテーション資料を作成できる専用のパソコンルームも備えています。(写真8～10)

〈設計者の視点から〉

- ◎間仕切りや出入り口・窓などを工夫することにより、教室～多目的スペース～広場とつながりを持った開放的な空間構成としました。(図2)
- ◎普通教室間の音の伝搬に配慮し、天井部分の吸音性を十分確保し、教室間の多目的スペースについては、吸音壁を設けるなどの対策を行っています。(図4、5)
- ◎普通教室と多目的スペースは、児童の活動や学習形態に合わせ、低学年、中学年、高学年それぞれ特徴をもたせた空間・設備としています。(図4、5)



## 情報環境の充実

## └ 校内無線 LAN の導入、コンピュータの分散配置



8 無線 LAN により校内各所でパソコンが利用可能



9 多目的スペースに設置されたパソコンは簡単な調べものや創作活動に利用



10 調べ学習などにも利用される専用空間としてのパソコンルーム

◎低学年ユニットはワークスペースを持った L 字型の総合学習型の教室ユニット、中学年ユニットは学年全体がまとまりのあるグループ学習に適した教室ユニット、高学年ユニットは個別学習や習熟度学習に対応するゼミ教室を持った教室ユニットとしています。(図2、4、5)

◎図書室・コンピュータルームを校舎中央に配置し、学校のラーニングセンターとして位置づけています。(写真10)

◎校内の様々な場所でパソコンが利用できるよう、校内全体に無線 LAN を整備しています。(写真8～10)

(設計/佐藤総合計画)

## ● 検討委員会委員の視点から

### 多様な学習活動が可能となる環境の整備の観点から

普通教室と一体的に連続した多目的スペースを計画することで、多様な学習方法や発表の場の確保が可能となり、その結果、コミュニケーション能力が育成されるなど、児童同士が学び合える環境が整備されている。

### 発達段階に応じた総合的な計画の観点から

低学年にはワークスペース、中学年にはグループ学習に適したオープンスペース、高学年にはゼミ室を設けるなど、発達段階に応じた児童の活動や学習形態の変化に柔軟に対応している。

### 情報環境の整備の観点から

校内に無線 LAN を整備したり、パソコンルームを図書館の隣に配置させたりすることで、身近な空間でパソコンの利用が可能となり、児童が自発的に調べ学習や創作活動ができる環境が確保されている。

# 2

東京都多摩市

## 多摩市立多摩第一小学校

- クラス数 / 18 クラス
- 児童数 / 637 名
- 建築主 / 多摩市
- 所在地 / 多摩市関戸 3-2-23
- 敷地面積 / 16,124.32㎡
- 建築面積 / 6,105.80㎡
- 延床面積 / 7,973.05㎡ (体育館 1,521.34㎡)
- 構造・規模 / 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上3階建
- 施工期間 / 2007年10月～2009年4月
- ※クラス・児童の数値は平成22年3月末現在

### 特別教室群の一体化で、調べ学習、体験学習を自由に展開できる。

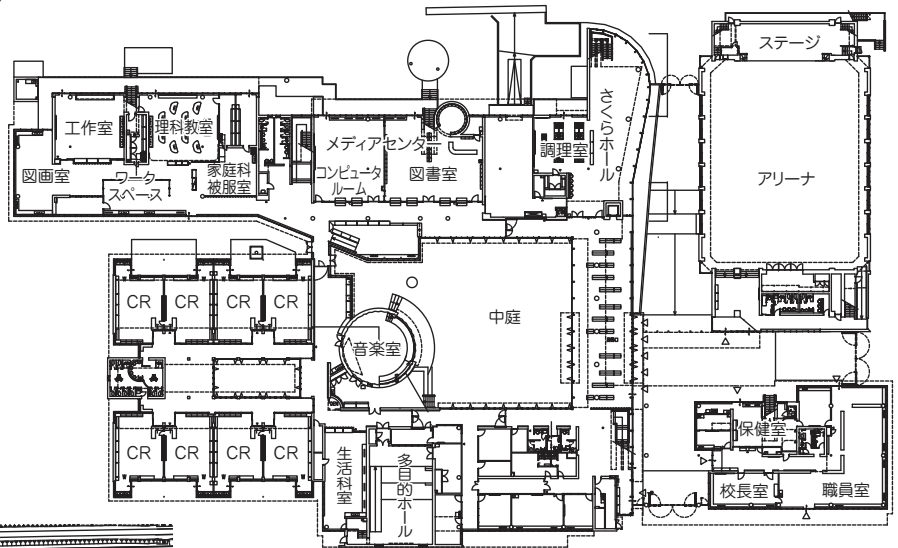
図書室、コンピュータルーム、理科教室、工作室、家庭科被服室、特別教室群を連続性のあるスペースに一体化。調べる、実験・体験するための環境整備。



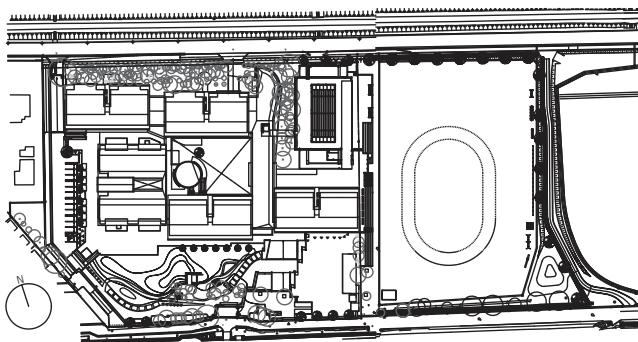
中庭を中心に配置された普通教室ゾーンと特別教室ゾーン

### 計画に見られる指針改訂のポイント

1. 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
2. 理数教育環境の充実
3. 家庭・地域と連携した施設の充実



■1階平面図



■配置図



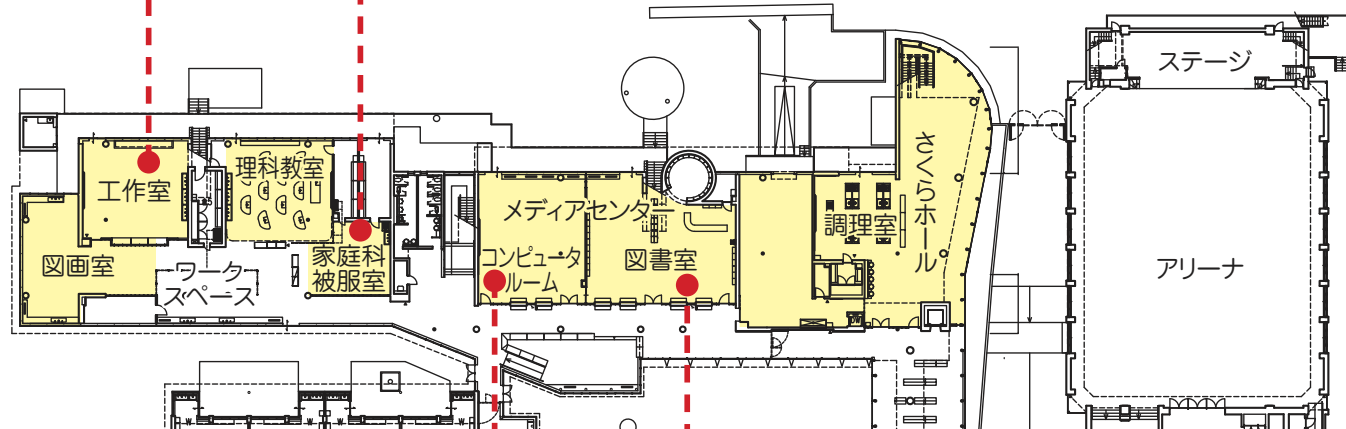
## 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供 特別教室の効率的な整備



1 工作室



2 家庭科被服室



3 特別教室が1階北側にまとめて配置されている



4 コンピュータルーム



5 図書室

### 校長の視点から

#### 学習能力を高める施設

児童の調べ学習や、実験や体験学習などを行いやすくするために、理科教室、図書室、工作室、家庭科被服室をオープンスペースのなかに一体的に配置しています。児童の関心を引き出し、高めていくようにできるだけ少人数で実験を行い、体験を話し合い発表できる環境を整えています。理解力が深まるとともに、挑戦する気持ちが養われ、学力向上へつながっています。(写真1、2、図3、写真4、5)

#### 余裕教室とフリースペースの利用で、少人数によるグループ学習を実施

教科によっては、児童の習熟度に大きな開きが生じます。一人一人の児童に確かな学力をつけるため、余裕教室とフリースペースを有効に活用して、少人数による指導を行っています。特に算数では、3年生以上で3学級を5つのグループに編成して指導しています。

### 教職員の視点から

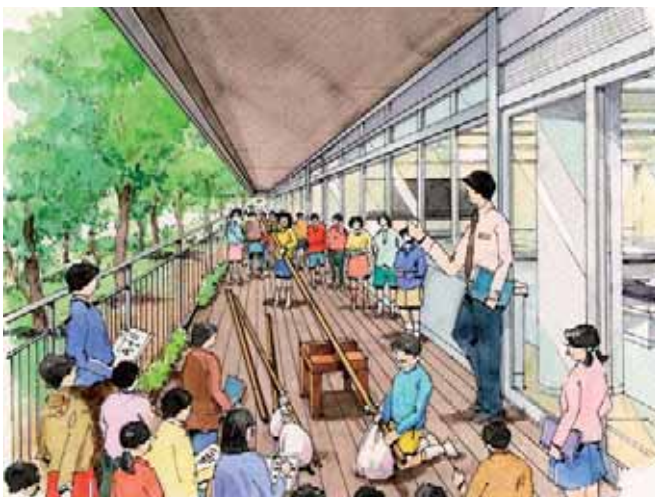
#### 児童の集中力が高まる理科教室の活用

ワークスペースと一体の理科室では、児童の集中力が高まるよう、全児童が教師の方を向ける机の配置となっており、演習実験も行いやすくなっています。また、隣接するバルコニーなどを利用した半屋外の実験や観察も行え、実験のまとめなどの時には可動の間仕切りを利用して落ち着いた空間を作ることできます。(写真6、図7、写真8)

理数教育環境の充実  
「観察・実験が充実して行える理科教室」



6 施設環境が整った理科教室。右奥に家庭科被服室



7 理科教室のバルコニー空間では実験道具などの物干しや半屋外での実験スペースとしても活用



8 理科教室と工作室をつなぐ、展示や発表などに利用できるワークスペース

ウッドデッキの中庭を  
地域活動に開放

地域との連携を学校運営に活かすため、学校の中心である中庭を地域活動に開放する予定です。黄色い円筒形の音楽室は、開けるとそこが野外ステージとなる構造となっているので、音楽会をはじめ多様な催しや交流の場となります。ウッドデッキにはそのまま座ることができます。(写真 9、10、図 12)

学習の内容と形態に合わせた  
施設づくり

「さくらホール」により家庭科の調理室とランチルーム、「メディアセンター」により図書室とコンピュータールームがそれぞれつながりを持っています。「さくらホール」は明るく開放的な空間で、全校児童が一堂に食事ができ、学習成果の発表にも使用されています。「メディアセンター」は調べ学習の中心として活用され、多様な学習形態に適した配置がなされています。(図 3、写真 11)

〈設計者の視点から〉

- ◎要求諸室を機能的に見直し、総合的な利用ができるように特別教室などはまとめ、床面積を縮小しながら、新たな空間を提案しました。(写真 1、2、図 3、写真 4～6、図 7、写真 8)
- ◎校舎を低層化し、接地性を高めることで、児童の活動領域が広がり、かつユニバーサルデザインにも配慮した安全性の高い計画を目指しました。(写真 1、2)
- ◎エコスクールとして環境との共生や施設の長寿命化を考慮した学校施設づくりを目指し、太陽光発電、雨水



## 家庭・地域と連携した施設の充実 ↳ 保護者や地域住民等が交流できる空間



9 建物中央にあるウッドデッキの中庭は地域開放の催しや朝礼などで利用（建物の屋根には太陽光パネルを設置）



10 音楽室の窓を開けると中庭の野外ステージと連続する（音楽室内部から中庭を見る）



11 調理室と連続したランチルーム(さくらホール)



12 中庭は保護者や地域住民によるイベント開催の場となる

## 検討委員会委員の視点から

### 特別教室の効果的な整備 の観点から

調べ学習や実験などが効率的に実施できるよう理科教室や工作室、図書室、コンピューター室等を一体的に配置するなど、学習活動の連続性を考慮した計画となっている。

### 理数教育環境の充実 の観点から

理科教室は演示実験が行いやすいよう実験機が配置されていたり、半屋外の実験・観察空間が整備されていたり、実験・観察等が充実して行える計画となっている。

利用、風力発電、屋上緑化を採用しています。将来、児童の減少などに備え、建物用途変更が行いやすいよう、構造壁以外は変更可能な間仕切り壁を多用しています。

(写真 6、8、9)

◎教室の北側配置や勾配屋根とハイサイドライトの設置等により、非常に落ち着いた雰囲気のある、光・熱環境の優れた教室をつくることができました。(写真 9、11)

(設計/アルコム)

# 3

兵庫県神戸市

## 神戸市立玉津第一小学校

- クラス数 / 27 クラス
- 児童数 / 915 名
- 建築主 / 神戸市
- 所在地 / 神戸市西区玉津町小山 1-1-4-7
- 敷地面積 / 20,717.52㎡
- 建築面積 / 5,383.91㎡
- 延床面積 / 9,343.40㎡ (体育館 1,359.07㎡)
- 構造・規模 / 鉄筋コンクリート造 地上3階建
- 施工期間 / 2005年12月～2007年3月
- ※クラス・児童の数値は平成22年3月末現在

### 豊かな自然体験と多様な エコ設備で、環境学習を促進。

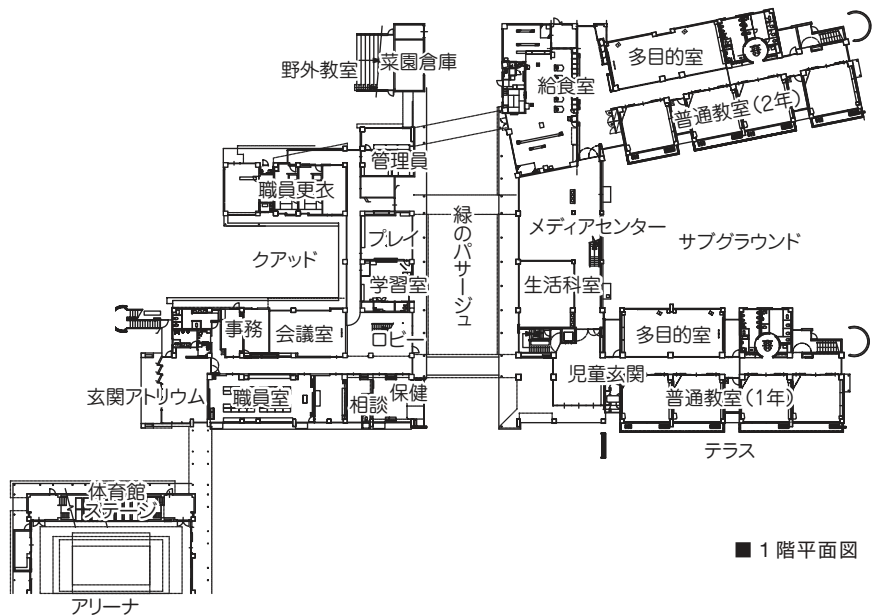
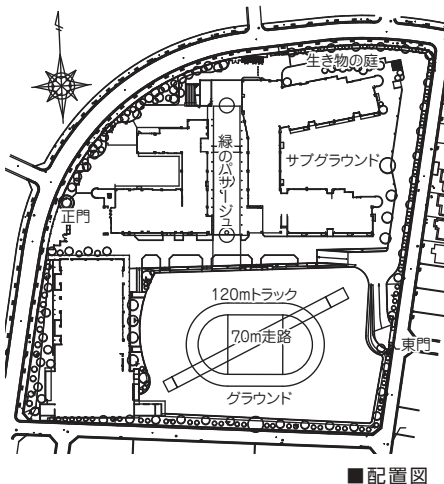
自然との共生が体験できる配置計画。中庭の芝生スペースを中心に、耕し育てふれ合うことで、生命の大切さを考える。自然エネルギーを積極的に活用する工夫。



サブグラウンド(芝生の中庭)に連続した普通教室とメディアセンター

### 計画に見られる 指針改訂のポイント

1. 環境面からの持続可能性への配慮
2. 屋内運動施設での快適な環境づくり





環境面からの持続可能性への配慮

「多様な自然体験ができる空間を、利用のしやすさに配慮して計画



1 多様な体験ができる緑のパスージュ



2 グラウンドに面した低学年テラス



3 ウサギの飼育小屋



4 土に親しむ畑

## 校長の視点から

### テラスや、芝生の中庭が 体験学習の場

校舎の中心に緑のパスージュ（小径）を配置し、1年生の教室は、南側にテラスと運動場が広がる、とても開放的な空間です。緑のパスージュとテラスは、生活科でコマを回したり、竹トンボを飛ばしたりするのにちょうどよいスペースとなっています。また、芝生の中庭では、休み時間ともなると裸足になって駆け回ったり、座っておしゃべりしたり、側転したりと、子どもたちは

思い思いにのびのびと楽しんでいます。さらに、2年生の教室にも南側に芝生の中庭があるので、わざわざ運動場に行くほどでもない外での活動には、サッと出られてすぐに使えます。運動会の前など、まだ運動場に出るほど運動になれていないときは、芝生の中庭で練習すると転んだり倒れたりしても痛くなく、子どもたちは怖さを克服しながらさまざまな運動能力を身につけていけます。身近な外遊びを通して、子どもたちは、知らず知らずのうちに自然体験をしています。（写真1、2）

### 生命の大切さを知ることが、 環境教育の第一歩

敷地内には畑やウサギの飼育小屋もあります。子どもたちはここで、土にふれ、種をまき、水やエサをやり、かわいがり、その成長に身近に接することで、生命の尊さ、生命への愛情を身につけていきます。そして、花が枯れたり、小さな生き物が命絶える場面にも出会ったりしながら、貴重な自然体験を積み重ねています。（写真3、図4）

環境面からの持続可能性への配慮  
「環境共生への関心を高める、さまざまな仕掛け



5 日射をコントロールする庇と室内に光を反射させるライトシェルフ



7 太陽光パネル



6 面積約430㎡の屋上緑化スペース



8 「風の道」の廊下上部の勾配天井により「風の筒」入口へ熱気を誘導



9 自然換気(重力換気)の排気口となる「風の塔」

教職員の視点から

光と風と緑を活かす仕組みで  
教室は一年中快適

太陽の高度が上がる夏には中庇が日射を遮るため、カーテンを引く必要がなく、教室には爽やかな風が流れ込みます。さらに、「風の道」「風の筒」「風の塔」による自然換気で、教室は夏場でも過ごしやすさを実感できます。また、条例基準を満たすというレベルを超えて、屋上面積の約30%に実施した屋上緑化は、校舎を夏の日射から守るだけでなく、中央

階段3階や廊下から見えることで子どもたちに癒しを与えています。一方、冬はライトシェルフが光の反射率を高めて教室の奥まで明るくしてくれます。この他、太陽光パネルと、その働きを目で確かめられるモニターは、子どもたちにとって環境学習の有力な教材となっています。こうした自然の力を活かすさまざまな知恵と身近に接することで、子どもたちは環境共生の基本を学んでいます。

(写真5～10)

地域に広く開かれた  
快適に使える運動施設

地域に体育館やグラウンドを開放するのに伴って、その使い勝手にも配慮しています。換気が行き届いた体育館内には、地域の方が使える更衣室や、グラウンドからも使いやすい「だれでもトイレ」を整備し、ベビーシートも設置しています。さらに、エントランスの床段差を解消し、地域の人たちが幅広く使えるようにしています。(写真10～13)



## 屋内運動施設での快適な環境づくり ↳ 快適な体育館の整備



10 室内外の温度差により生じる気圧差を利用した重力換気システムを設けた体育館



11 床段差のないエントランス



12 外からも使いやすい「だれでもトイレ」



13 「だれでもトイレ」内のベビーシート

### 〈設計者の視点から〉

◎子どもたちが元気に走り回る「緑のパサージュ」を南北に貫きました。  
(写真1)

◎北校舎を南校舎より長くし、南風を北校舎が受け止め、南北の圧力差を利用して北校舎に風を引き入れる工夫をしています。東西方向の風には、南北の校舎の中間の緑のパサージュ内に圧力のゆらぎが起こり、そよ風が得られるようにしています。また、ライトシェルフや庇により採光と遮光を調整し、快適な光環境をつくっています。

(写真1、5、8、9)

(設計/いるか設計集団)

### ● 検討委員会委員の視点から

#### 環境面からの持続可能性への配慮の観点から

中庭の芝生や屋上緑化、ライトシェルフや太陽光パネル、自然換気の利用など、環境負荷の低減や自然との共生を考慮した施設計画となっている。

#### 屋内運動施設での快適な環境づくりの観点から

外部空間と内部空間の運動施設を結ぶ動線の良さや、トイレ等細部にまで行き届いたユニバーサルデザインなど、地域開放も視野に入れた計画となっている。また、換気設備を充実させるなど、快適な運動空間が確保されている。

# 4

富山県滑川市

## 滑川市立西部小学校

- クラス数 / 20 クラス
- 児童数 / 529 名
- 建築主 / 滑川市
- 所在地 / 滑川市上島 471
- 敷地面積 / 25,000㎡
- 建築面積 / 7,169㎡
- 延床面積 / 8,217㎡ (体育館 1,395㎡)
- 構造・規模 / 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 / 地上 3 階建
- 施工期間 / 2004 年 6 月～2005 年 8 月 (増築)  
2006 年 6 月～2007 年 6 月 (第一期)  
2008 年 5 月～2008 年 12 月 (第二期)

※クラス・児童の数値は平成 22 年 3 月末現在

### 木のぬくもりのある学習環境が自立心と協調性を養い学習効果を高める。

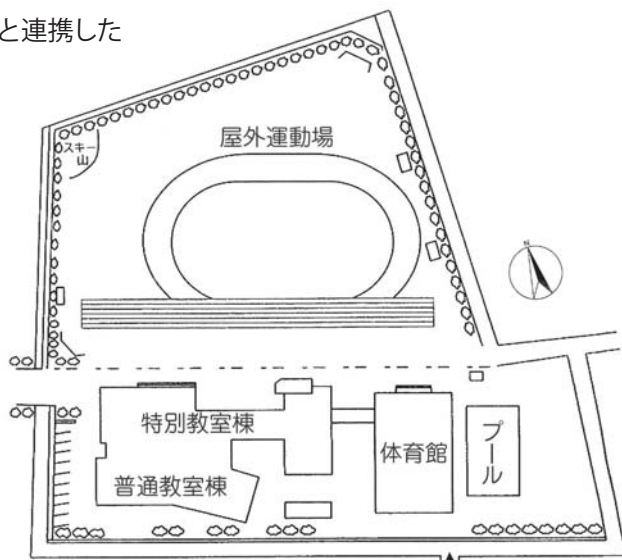
普通教室棟を増築し、既存校舎の耐震補強・改修とあわせて、発達段階に応じクローズからオープンへ変化する学び舎に情報環境を設け、自学自習と学び合い、地域との交流など、多様な活動が児童を育てる。



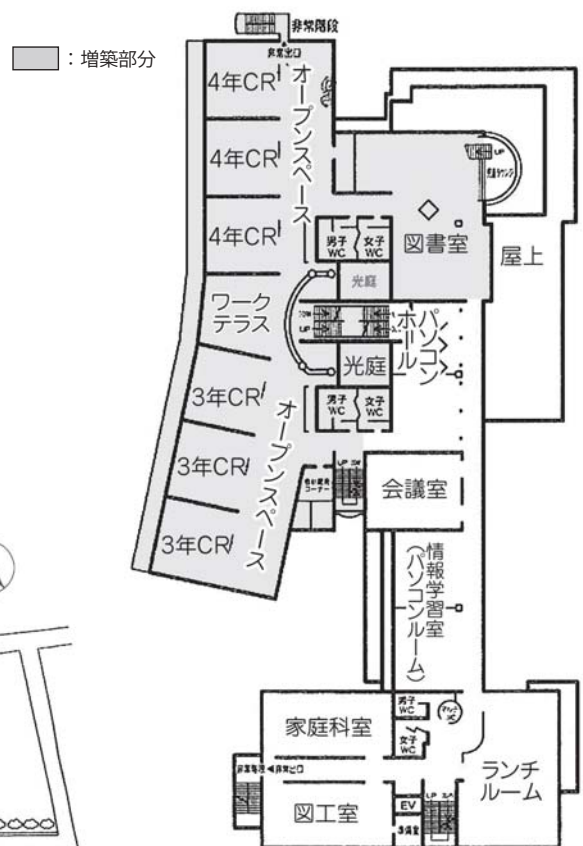
屋外運動場から見た外観 (耐震補強・改修された既存校舎と増築棟)

### 計画に見られる指針改訂のポイント

1. 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
2. 情報環境の充実
3. 家庭・地域と連携した施設の充実



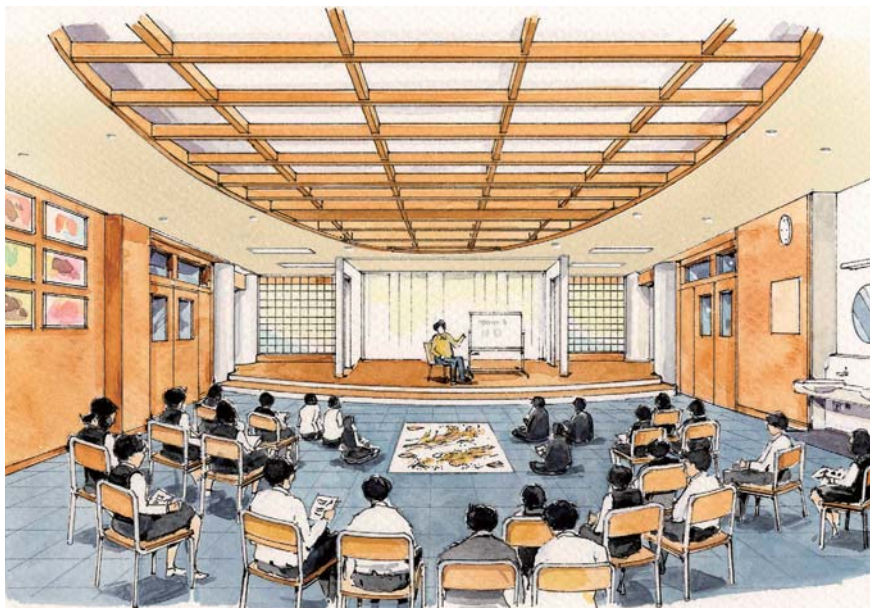
■ 配置図



■ 2 階平面図



## 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供 ↳ 多様な学習活動に対応する開放的で多目的な学習空間



1 ワークテラスにはステージがあり、外部の講師を招いた授業やボランティアの読み聞かせの場としても利用される



2 オープンスペースは可動家具や可動間仕切りで空間を区切ることで多目的に利用(高学年)



3 デン状のロッカー空間で教室とオープンスペースを区切る(低学年)



4 木のあたたかみを活かした開放的なオープンスペース

### 校長の視点から

#### 学び合いを重視した 可変空間の利用

開放的な空間を利用した交流の場には、学年を超えて学び合える環境が整えられています。オープンスペースでは、学年集会を行うことができ、教室を含めた広い空間には廊下との間仕切り壁がないので、子ども同士の交流が盛んに行われています。開放的な空間と家具による仕切りで構成されたデンとの使い分けなど、討論や発表会など利用目的に合せた多様な空間構

成が可能となっています。

ステージのあるワークテラスが各階に設置され、児童の自発的な発言や発表の場として使われています。イキイキとした躍動する子どもの姿が見られます。学年やクラスにとらわれない意見交換が行われ、互いを理解する場となっています。また、オープンスペースに展開された図書室は読書環境を身近なものにし、学習意欲を向上させます。

(図1、写真2、3、6、図4)

### 教職員の視点から

#### 教室の広がりを利用した チームティーチング

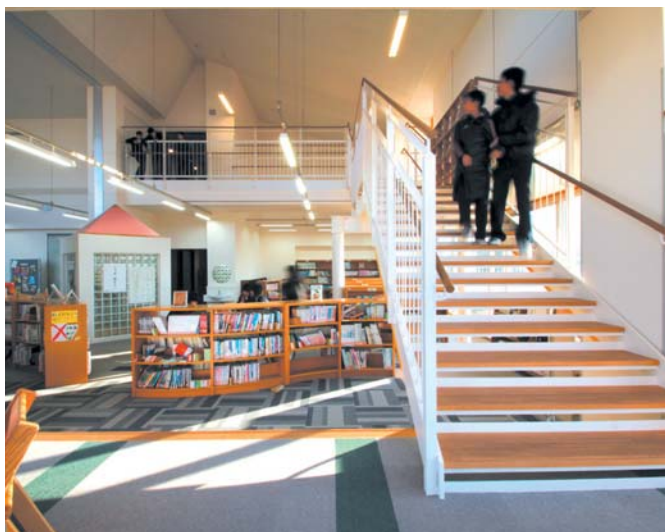
教室と前面のオープンな廊下は、全体で広がりのある空間となり、少人数のグループでの学習が可能です。多様な学習課題やグループミーティングなど幅広い利用が行え、児童一人ひとりの発言回数も増えています。壁がないので、間仕切りに掲示した作品が廊下を歩く児童からもよく見え、他の学年やクラスとの交流にも役立っています。(写真3)



情報環境の充実  
パソコンルームと図書室が連携する配置



5 改修校舎の補強、改修によって設けられたオープンで余裕のある情報学習室



6 2、3階のオープンスペースからもアプローチできる図書室



7 パソコンホールに隣接する自由な雰囲気の図書室

個別学習、グループ学習に対応  
できるパソコンルーム

疑問や難問を解くためには、じっくりと取りかかする必要があります。そのために、オープンな情報学習室（パソコンルーム）が、リラックスできる環境として整備され、いつでも利用できるように台数を増やしています。先生や友だちと一緒にパソコンを操作できる配置としています。（写真5）

児童の知的好奇心を高める  
施設の連携

図書室で本を読んでいたら、わからないことができて、もっと知りたいと思うことがあります。逆にパソコンを使って調べていて、図書室で書籍を調べたいと思うことがあります。隣接した図書室とパソコンホールは、児童の知的好奇心を満たす環境となっています。（写真6、7）

こころのケア  
に対応する施設

1階には、保健室から直接入れるカウンセリング室「ハートルーム」があり、児童の心配ごとや悩みなどを個別に相談できます。また、地域の人に会議室を開放してカウンセリング活動を行っています。トイレはだれでも利用できるよう多目的トイレを用意しています。（写真9～11）



## 家庭・地域と連携した施設の充実 地域に開放された施設とカウンセリング空間の充実



8 改修された2階ランチルームでは家族とランチを食べることも可能



9 地域の人も利用できる会議室



10 会議室の近傍にある地域の方も使える多目的トイレ



11 保健室からも直入れれるハートルーム (カウンセリングルーム)

### 〈設計者の視点から〉

- ◎図書室をオープンな空間に設定することで、低学年から高学年まで興味に応じた読書や調べ学習などを自由に行いやすい環境として整えました。(写真7)
- ◎ワークテラスで開催される地域の方との交流や、会議室での教育相談の開催などの機会に、多くの一般の方が来校されることを考慮し、教育相談の会場となる会議室の近傍に多目的トイレを設置しています。(図1、写真9、10)

(設計/富山県設計監理協同組合)

### ● 検討委員会委員の視点から

#### 多様な学習活動に対応した環境の整備の観点から

学習成果の発表や地域のボランティアによる授業などに使用できるステージ状の空間や、個別学習、グループ学習などに対応できる可動間仕切りを備えたオープンスペースの整備など多様な活動が行える施設環境が確保されている。

#### 家庭・地域と連携した施設の充実の観点から

アットホームな雰囲気のカウンセリングルームを整備するなど、児童の心のケアに配慮した施設となっている。また、地域からの相談などにも対応できる空間も用意されており、カウンセリング機能が充実した施設といえる。

# 5

東京都武蔵野市

## 武蔵野市立大野田小学校

- クラス数 / 24 クラス
- 児童数 / 618 名
- 建築主 / 武蔵野市
- 所在地 / 武蔵野市吉祥寺北町 4-11-37
- 敷地面積 / 15,051.77㎡
- 建築面積 / 4,687.49㎡
- 延床面積 / 13,508.07㎡ (体育館 1,267.95㎡)
- 構造・規模 / RC 造, SRC 造, S 造  
地上 5 階地下 1 階建
- 施工期間 / 2003 年 10 月 ~ 2005 年 3 月
- ※クラス・児童の数値は平成 22 年 3 月末現在

### 多様な学習空間を構築。 環境教育に力を入れた設備配置。

低学年と中高学年の特性に合わせたスペースのしつらえ。多目的階段教室や多目的ホールで多様な学習に対応。環境教育と理数教育を考えた施設づくり。



既存けやき並木に沿って配置された校舎

### 計画に見られる 指針改訂のポイント

1. 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
2. 環境面からの持続可能性への配慮
3. 理数教育環境の充実





## 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供 「学年ごとに異なる次世代オープンスペース型教室の導入」



1 学年ごとに異なる特徴のある多目的スペース(オープンスペース)(1年)



2 学習室



3 多目的ホール



4 多目的階段教室「けやきホール」

### 校長の視点から

#### 学年の違いに配慮した スペースづくり

小学生は、各学年で行動や身体サイズ、学習環境が大きく違ってきます。本校では、各学年ゾーンに配置されるオープンスペースの特性を変えています。低学年では、各学級内で機能が完結するオールインワン型、中高学年では変化のある連続したオープンスペース型としています。これによって、それぞれの学年の教育内容に対応するとともに、児童は進級する

喜びを味わえるようにしています。また、児童が日中の大半の時間を過ごす生活空間であることを考え、色彩豊かなインテリアとあたたかみのある木製の床や壁を採用しています。そして、この空間に合った家具計画として、児童の意欲を喚起するような家具も用意されました。複合した組合せや使い勝手によって、児童は使い方を発見する楽しさを体験しています。(写真1～3)

#### 児童の活動を地域発信する 「けやきホール」

本校では、地域との連携に配慮して敷地東側に教育支援センター、地域子ども館、大野田こどもクラブを配置し、アプローチを確保しています。また特別教室棟を東側に置き、特に、児童の日常的な発表の場となる多目的階段教室「けやきホール」を東側道路に面して配置することによって、児童の活動や学校の雰囲気を外部に伝えるようにしています。(写真4)

環境面からの持続可能性への配慮  
「環境共生への関心を高める施設づくり」



5 自然体験ができるビオトープ



6 半透過型の太陽光パネルを採用した庇



7 4学年普通教室から続く屋上緑化テラス



8 自然換気と床下に埋設した冷水管パイプで冷房効果を高める

教職員の視点から

環境配慮への  
関心を高める多彩な施設

ビオトープや屋上緑化、自然換気を利用した施設など児童が自然とふれ合う環境がちりばめられ、環境への配慮を児童が身近な問題として意識できるようにしています。例えば、プールサイドと屋上緑化テラスの庇部分に太陽光発電設備が設置されているので、児童たちは電力の消費や発電の仕組みなどを理解し、関心を持つことができます。(写真5～7、図8)

コンピュータ室との連携で  
さらに使い勝手が高まる図書室

大型本書架を備えた図書室には、読書・調べ学習スペースと読み聞かせスペースがあり、児童の使い勝手がよくなっています。また、図書室のデータベースを隣のコンピュータ室と関連づけ、メディアセンターとして機能させることも可能です。児童の学習とともに教員の研究環境も充実することを期待しています。(写真9～11)

集まって先生の実験を見学する  
ことで学習効果が向上

理科教室2室と準備室の他にオープンスペースがあります。中央が空いた理科教室では、集中して見たり、話し合ったりできるので、学習効果が高まります。また、可搬家具は、さまざまな場所での機動的な実験を可能にし、実験の楽しさを高めてくれます。さらに、天井に組み込まれたプラネタリウムは、理科好き・宇宙好きの科学する心を育てています。(写真12、13)



## 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供 └ コンピュータ室と連携した図書室



9 読書や調べ学習を行う図書室の調べ学習スペース



10 図書室に隣接し、一体利用もできるコンピュータ室



11 図書室内部に円形の読み聞かせスペースを配置

## 理数教育環境の充実 └ 充実した観察・実験のための理科教室の計画



12 中央を空け、実験が見やすいよう配慮した理科教室



13 プラネタリウムを備えた理科のオープンスペース

### 〈設計者の視点から〉

- ◎武蔵野の緑に包み込まれる心地よい環境を目指しています。地域と共にある学校として、周辺の日影に配慮しけやき並木の南側に校舎を配置。教室から南側の豊かな緑を感じられます。(外観写真)
- ◎教室は半袖半ズボンで過ごす児童を冷やし過ぎない、木陰のような涼しさを目指した床涼温房を採用しています。(図8)
- ◎休み時間や移動時に、けやきの中庭やビオトープ、屋上緑化など、身近な自然で季節感を感じられます。(写真5、7)

(設計/日本設計)

### 検討委員会委員の視点から

#### 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供の観点から

低学年は各学級内で機能が完結するよう空間を構成、中高学年では変化のある連続したオープンスペースとするなど、発達段階に応じた計画となっている。また、家具についても、発達段階に応じ、大きさや材質等を選択するなど配慮されている。

#### 環境面からの持続可能性への配慮の観点から

ビオトープや屋上緑化テラスを整備するなど、児童が身近に自然と触れ合える空間を確保している。また、児童が日常的に利用する空間には、極力木材を利用したり、児童が目につきやすい部分に太陽光パネルを設置するなど、児童が身近に環境を感じ、環境との共生について関心が高まるような計画となっている。

# 外国語活動のための充実した空間

## 外国語活動のための専用空間



1 富山市立中央小学校の外国語教室

## 校長の視点から

本校では小学校ではめずらしい外国語教室を設けています。外国語のための教室なので、児童の興味を外国語へ向けさせるのに大いに役立っています。

外国語活動では体を動かす学習方法が多いため、スペースを確保するために机は使用せず、イスは壁際に重ねて必要に応じて用いるようにしています。また、床がカーペット敷きになっているため、床に座りながら授業が行えますので、児童はリラックスしながらALTとの会話ができています。(写真1)

(富山市立中央小学校)

## 外国語活動のための他用途と併用した空間



2 多摩市立多摩第一小学校 多目的ホール

小学校の外国語教育では、会話や音声を用いた学習に重点を置くことが重要です。多目的ホールはプロジェクターや音響設備が充実しており、音声や映像を多用した英語教材を最大限利用できるため、外国語の授業に大いに活用しています。他の授業に支障がないよう遮音性能や室の配置には配慮されており、十分な広さの中で音声や映像に合わせて体を動かす学習にも十分対応できています。(写真2)

(多摩市立多摩第一小学校)



3 静岡市立清水庵原小学校 外国語活動室



現在使用していない普通教室を外国語活動室として利用しています。教室後方の児童用ロッカーは、児童がいつでも使える英語教材コーナーとして活用し、掲示板には児童が興味を持つようなカラフルな英語学習用のポスターを貼り、教室前には国旗を飾るなどして外国語への親しみや興味を湧くような雰囲気づくりをしています。(写真3) (静岡市立清水庵原小学校)

## 〈設計者の視点から〉

### ●多様な学習活動への対応の観点から

体を動かしての学習や、床に座っての活動などに対応するため、広い面積を確保したり、カーペットを床に敷くなど、外国語活動の多様な活動を考慮した空間を確保しています。

(写真1)

### ●音環境への配慮

外国語教育での会話や音声を用いた学習に配慮して、吸音材を用いたり、教室の配置を工夫するなど、遮音性等に考慮した計画となっています。

(富山市立中央小学校)

(設計/日総建+富山建築研究所)